

# 千波湖に市民ビオトープをつくろう

～第5回千波湖環境学習会～

水戸市のシンボル千波湖の水質浄化と生物多様な環境を再生する「千波湖に市民ビオトープをつくろう」が、千波湖環境学習会のプログラムの一環として去る10月21日に行われました。

この取組は、主催の当協会と水戸市環境課に加え、地域貢献を推進する水戸市内の23の関係団体によって平成22年に設立された千波湖水質浄化協会が協働して実施しています。

平成24年度から例年この時期に実施され、今回で6年目を迎え、これまで、図.1に示す千波湖南岸の水際線に土を造成して水生植物を植栽してきました。

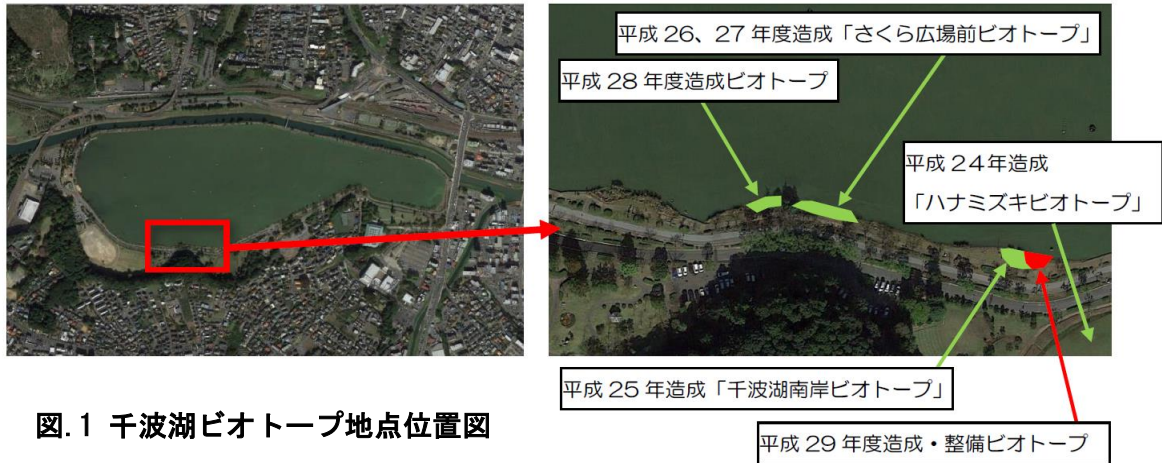
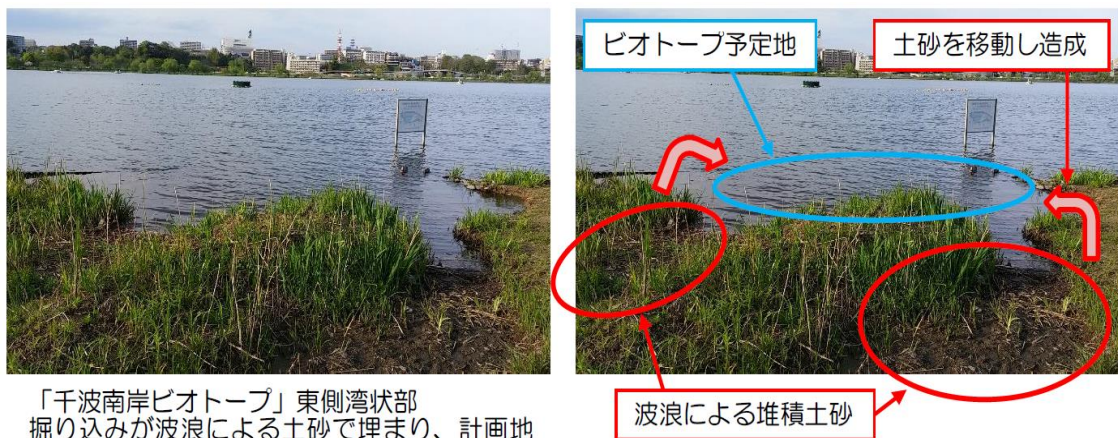


図.1 千波湖ビオトープ地点位置図

本年度は、図.1に示した平成25年度に造成したビオトープが波の影響を受けて土砂が溜り、陸となり、ヨシの勢いが過剰となったことから、陸の部分を掘り込み、東側に運んで新たな土台をつくる計画で進められました(図.2参照)。



「千波南岸ビオトープ」東側湾状部掘り込みが波浪による土砂で埋まり、計画地は、隣接した湾状部のため、ビオトープの拡張が容易い。

湿性植物の増加・活性化による、生物多様性空間の拡大。

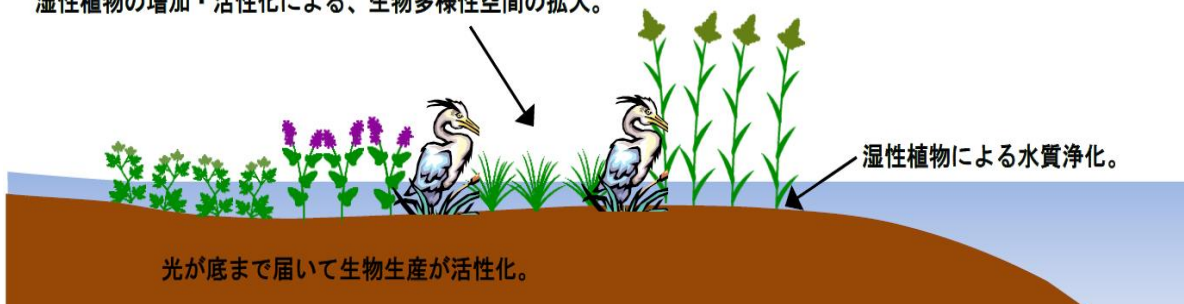


図.2 本年度ビオトープ造成計画

本年度実施するビオトープづくりの基盤土の整備は、9月～10月初旬にかけて実施しました。

平成25年度に造成したビオトープのヨシ原の草刈りを行い、地盤高を確認した上で、陸地化した土の部分をも、-10cmまで掘り下げ、東側へと広げていきました。



造成前の様子



ヨシ払い後



掘り下げ後

ビオトープに植栽する植物は、偕楽園公園に繁茂する近隣の雑草湿地から採取してきます。この湿地帯では地域の学生や子どもたちを中心に、千波湖周辺にホタルを再生させる活動が行われており、毎年この時期に過剰に繁茂したガマやセキショウを根茎から除草しています。これらの植物の抜き取りをビオトープづくりの前週に行い、間引いたものを千波湖に運び、植栽するといった一石二鳥のエコ作業となっています。



ホタル保全のため間引きした植物

ビオトープ造成の10月21日は、台風18号の接近が心配される雨天にもかかわらず、100名の親子に会場まで足を運んでいただきました。主催者挨拶の後、記念撮影を行い、早速、ビオトープ造成予定地に向いました。



開会式の様子



ガマの植栽



**セキショウの植栽**



**見事に完成了しました**

最初に、湖側のビオトープ外側に波よけのため大型植物のガマを植えていきました。ガマは水辺の植物としては景観に優れており、過剰に繁茂することもないものです。次に、広い面積を占める中央部にはセキショウを植えました。これは湿地帯に生える多年草で、緑葉のまま越冬するため、枯れることのない植物の優等生です。最後に小型のイグサを植えて見事なビオトープが完成しました。植栽に参加した子どもたちにとって、思い出の1ページとなり、近い将来「水戸のシンボル千波湖」を守っていく担い手になってもらえる姿を期待しています。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。